

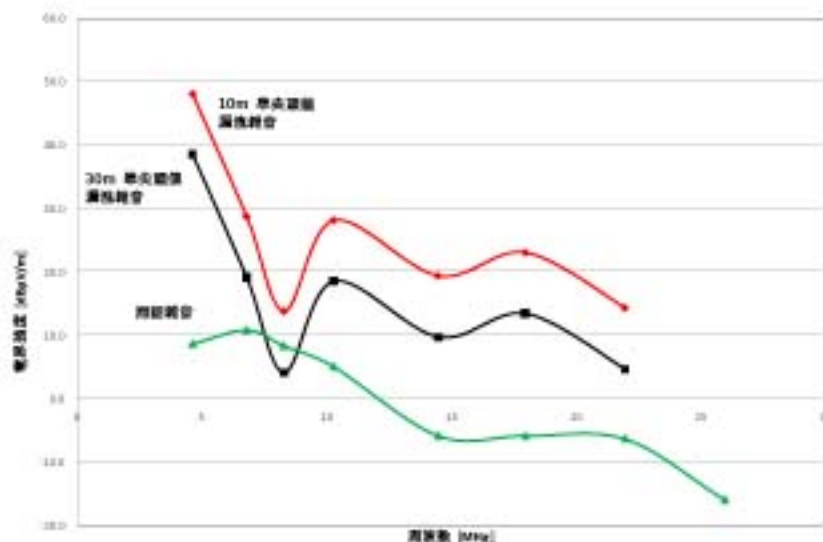


図16. 裾野市住宅の測定点Bに於ける
漏洩電界
NECアクセステクニカ(株)製
PA-CA2100P

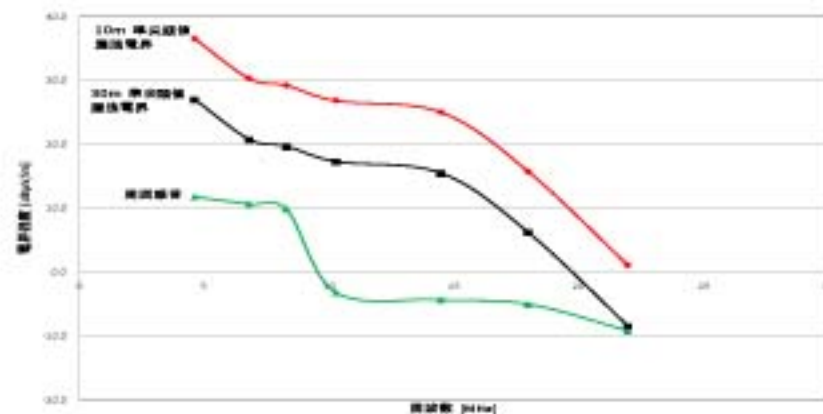
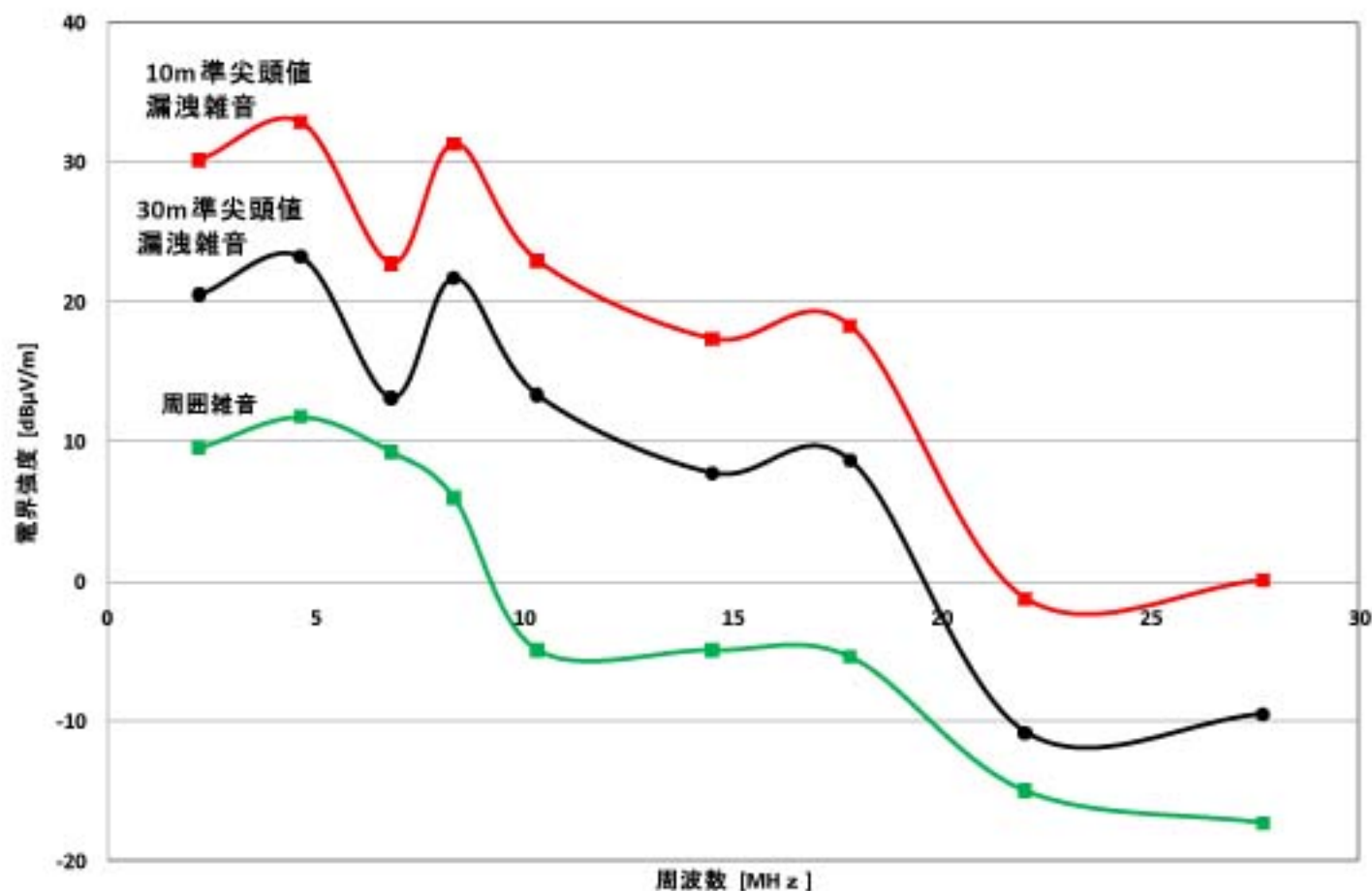


図19. 牧の原市住宅の測定点Bに於ける
漏洩電界
NECアクセステクニカ(株)製
PA-CA2100P

陳述書24/52頁及び26/52頁より



**図17. 裾野市住宅の測定点Aに於ける漏洩電界
パナソニックコミュニケーションズ(株)製BL-PA300**

陳述書25/52頁より

- 漏洩電界からCMI計算値の算出方法(乙4号証86/101頁より)
- $I_{com}(Max) = E_p + L + A - Z + K$

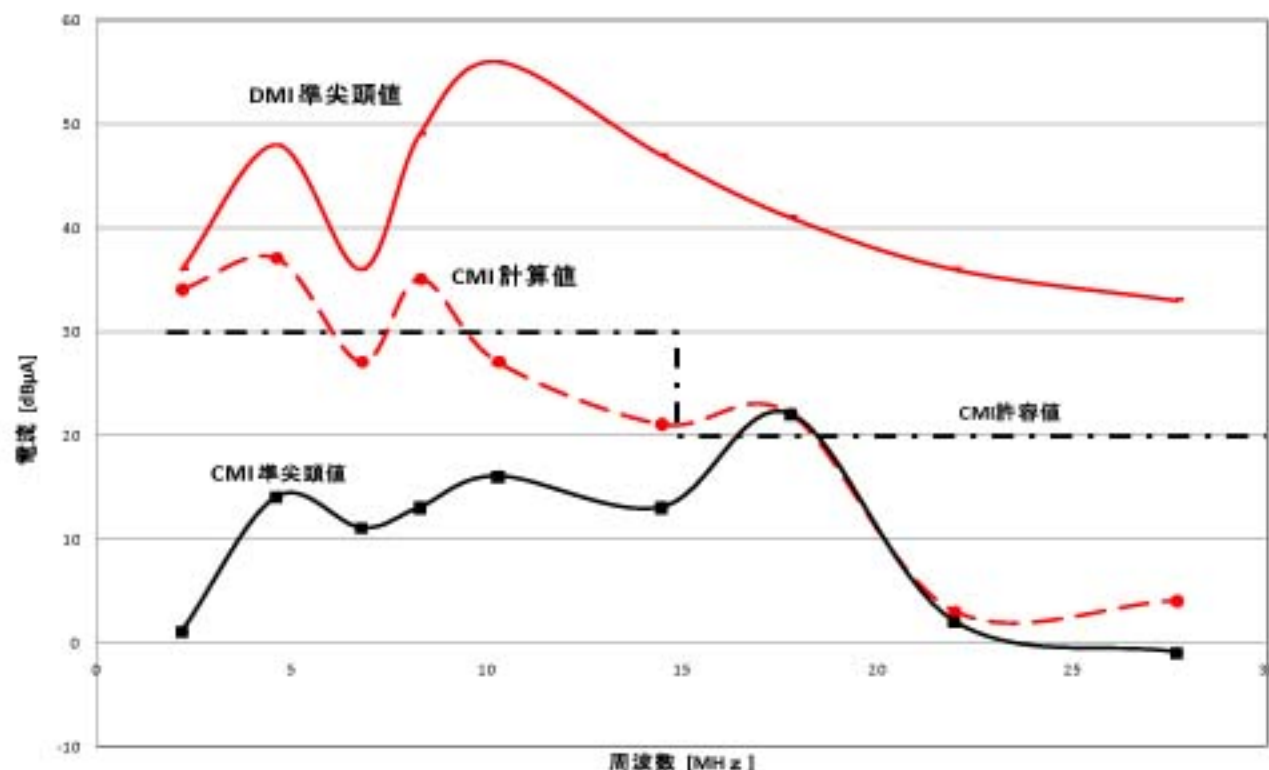


図25. CMI及びDMI測定と漏洩電界からのCMI計算値比較
パナソニックコミュニケーションズ(株)製BL-PA300

陳述書41/52頁より

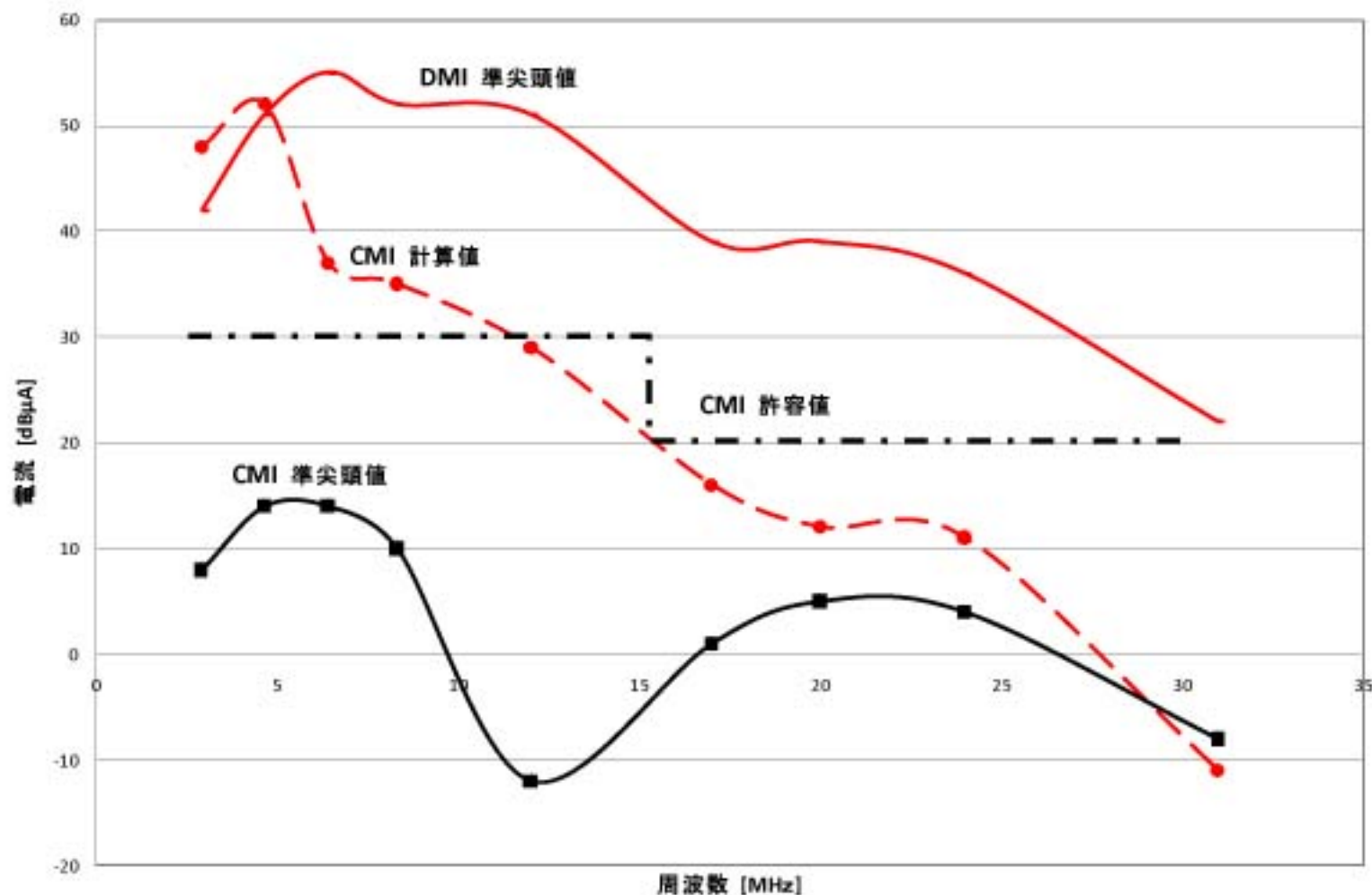


図26. CMI及びDMI測定と漏洩電界からのCMI計算値比較
 ネットギア・インターナショナル(株)製PL-NTGR-300

陳述書41/52頁 [より](#)

測定実証結論1

- 技術基準に示す周囲雑音を測定した測定方法が、ITU-R P.372-8/9に準拠していない事が明らかになりました。
- 技術基準に示す周囲雑音を測定した測定器及びアンテナでは、ITU-R P.372-8/9のResidential(住宅環境), Rural(田園環境)及びQuite Rural(閑静な田園環境)並びに陳述書(甲170号証)図7から図10の測定比較が、出来ない事が明らかになりました。
- 技術基準に示す周囲雑音の目標値は、測定に使用した測定器及びアンテナによる測定時の測定下限から、決定した事が、推定出来ます。
- 以上により、技術基準に示す周囲雑音の目標値は瑕疵があり、立ち会って測定を実証する必要があります。

測定実証結論2

- 技術基準に示す漏洩雑音を測定した測定器が、CISPR16-1-1に準拠していない事が明らかになりました。更に、このFFT方式の測定器を使用した2006年迄にはCISPR16として規定されておらず、2009年の現時点では、CISPR16-2-1～3として委員会原案（甲161号証）の状態の測定器です。
- 技術基準に示す漏洩雑音を測定した測定方法が、CISPR22に準拠していない事が明らかになりました。
- 以上により、技術基準に示す漏洩雑音の測定は、CISPR委員会つまり国の測定は無効です。

測定実証結論3

- 技術基準に示すCMIと漏洩電界の理論関係式(乙4号証86/101頁)が、成立しない事が明らかになりました。
- 従って、CMIを規制する事によりDMIを規制する事になると言う国の主張が、成立していない事が明らかになりました。
- 技術基準を構築した理論、特にシミュレーションのみで測定実証していない理論は全て信頼に足りません。(所謂、机上の空論となります)。
- 以上により、技術基準は全て見直す必要があります。



**写真1.アマチュア無線局識別信号 [redacted] の
測定器及び軍用無線機器の一部**

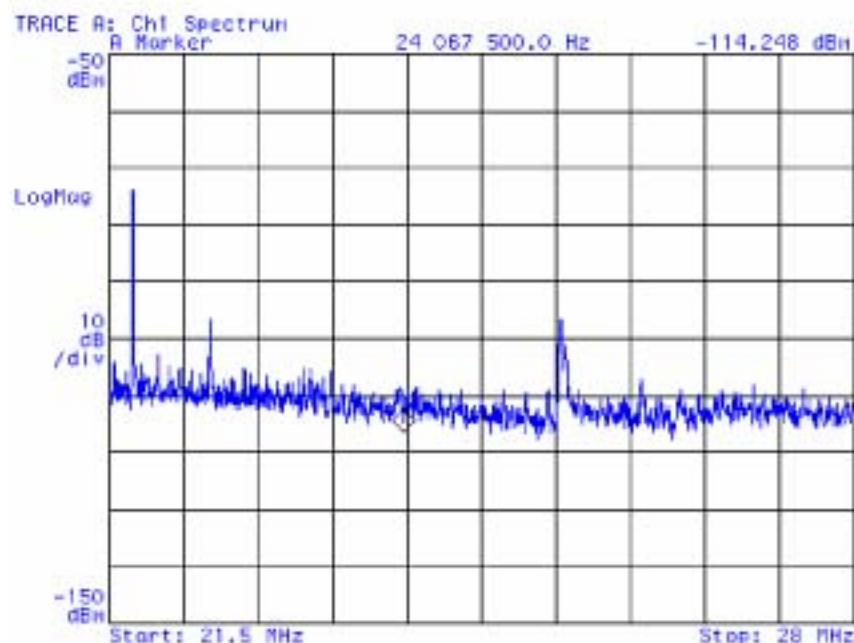
陳述書4/52頁及び47/52頁関連[資料](#)



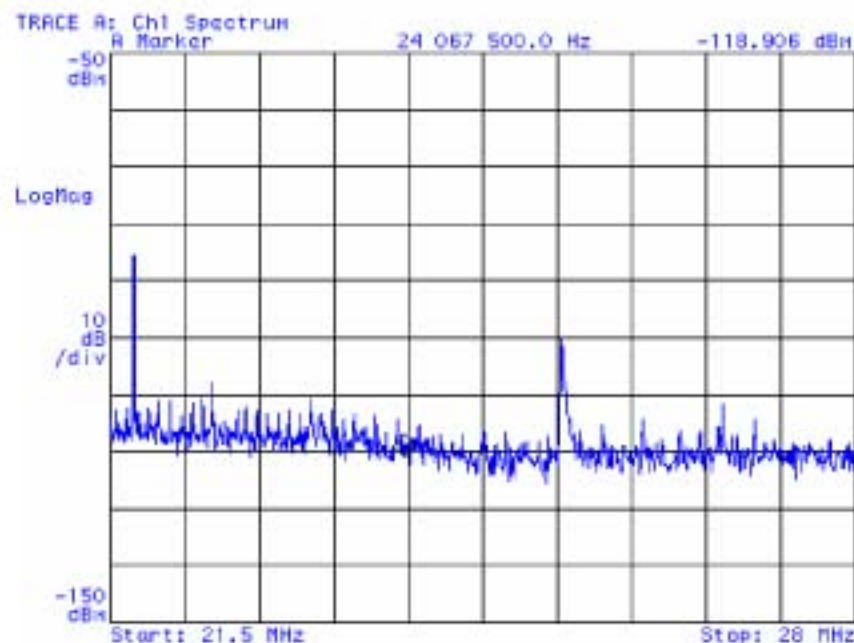
**写真2.超高精度の可搬型セシウム原子周波数・時間標準
HP/Agilent/Symmetricon 5071A/001
全世界の周波数・時間標準機関及び研究所
並びに国家標準で使用されている標準器**



**写真3.超高精度のセシウム原子周波数標準器群
及び超高安定水晶発振器群**

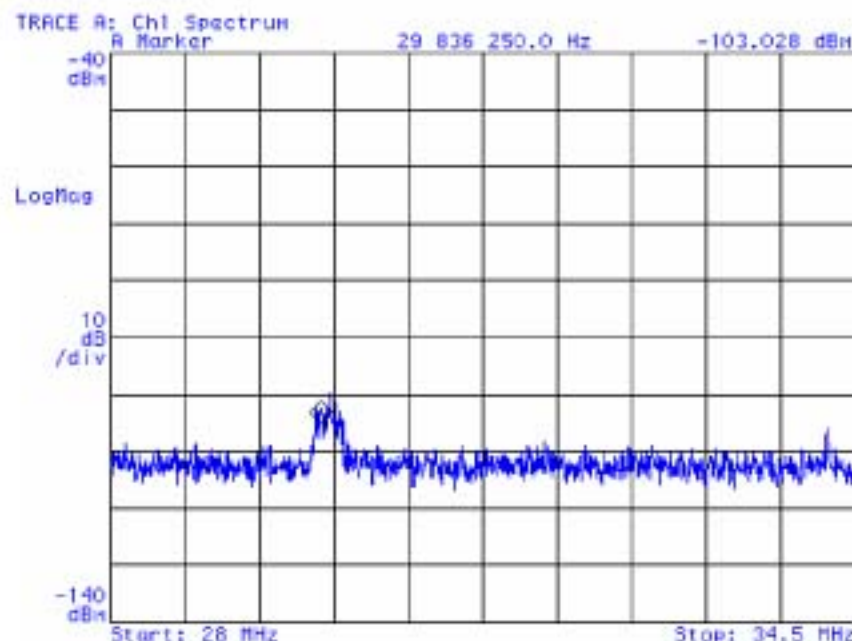
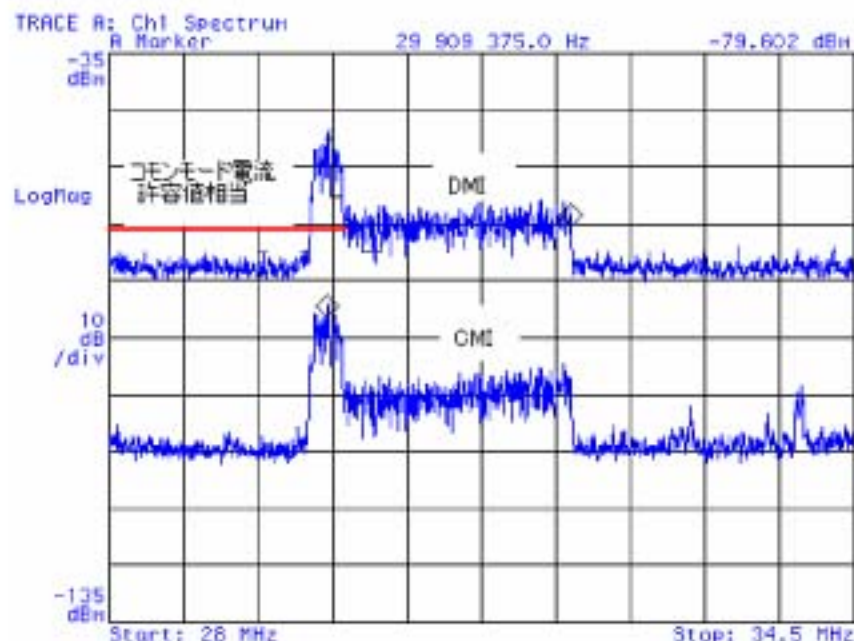


周囲雑音を、尖頭値測定で
ピークホールドし、平均化した
下端の測定例



周囲雑音を実効値測定し
平均化した中央値測定例

陳述書13/52頁の(3)測定例



電子情報通信学会EMCJ2008-
51の10頁の図11 CMI/DMI
測定(28～34.5MHz)

漏洩電界測定(28～34.5MHz)

陳述書41～42/52頁及び図26参照

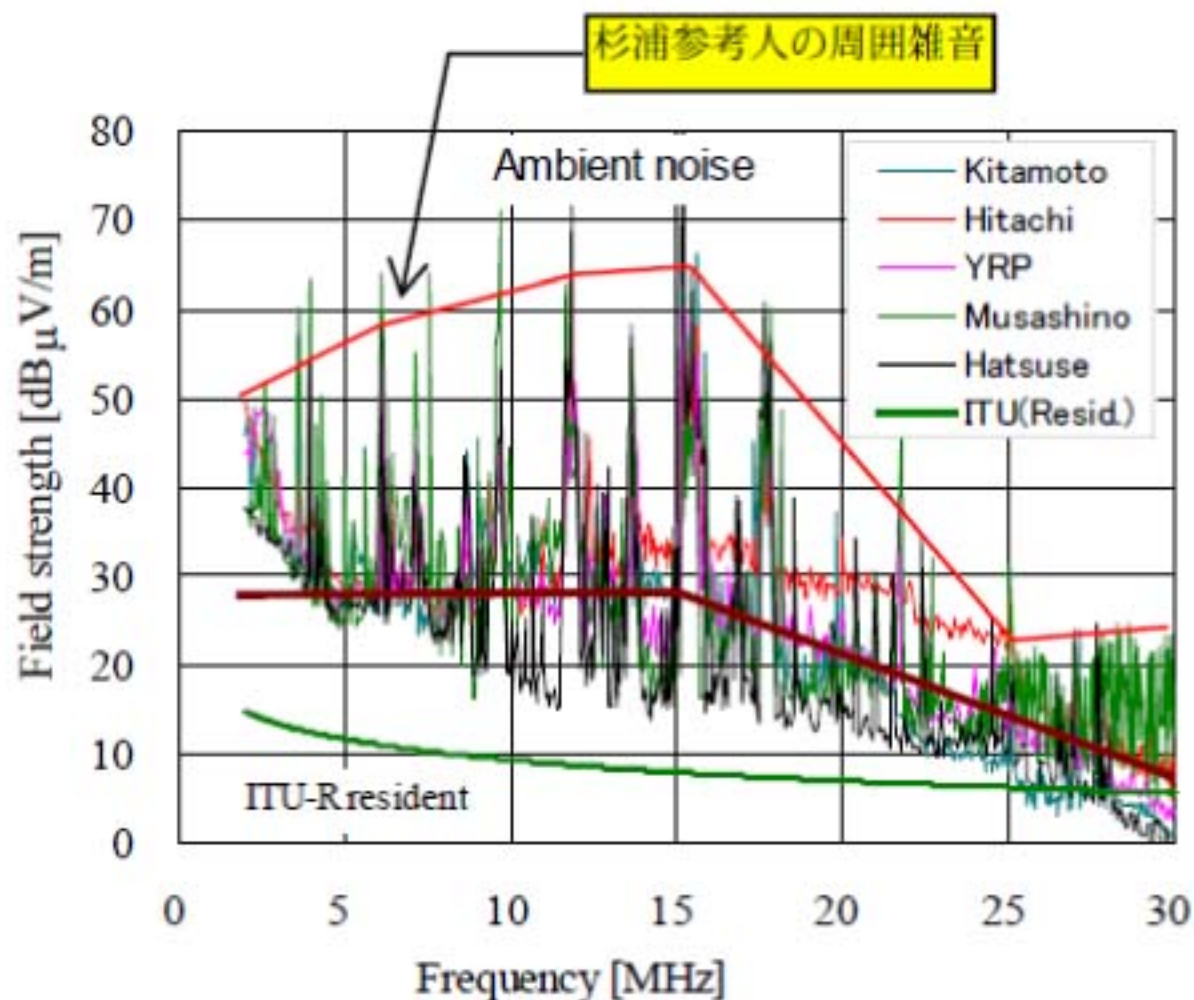


図24. 杉浦参考人の周囲雑音の定義

陳述書38/52頁より

参考人と国の測定比較

項目	参考人の測定		国の測定	
	内容	評価	内容	評価
1.使用アンテナ	RF Systems DX-1Pro		ETS-Lindgren (EMCO) 6509	
2.アンテナ用途	微弱信号受信・測定		妨害波測定 シールド効果測定	
3.アンテナ感度または 利得	高	○	低	×
4.最小検出電界強度 または最小測定電界 強度	低 (主に測定器の測定下限 に依存)	○	高 (主にアンテナ感度または 利得に依存)	×
5.測定周波数点および 測定周波数幅	稠密	○	離散	×
	隙間無	○	隙間有(隙間:約83%)	×
6.周囲雑音測定値	実効値測定の中心値へ 換算	○	実効値の最大値の平 均?	×
7.漏洩雑音測定値	尖頭値の最大値の平均 値を準尖頭値へ換算	○	実効値の最大値の平 均?	×
8.測定信頼性	高	○	低	×

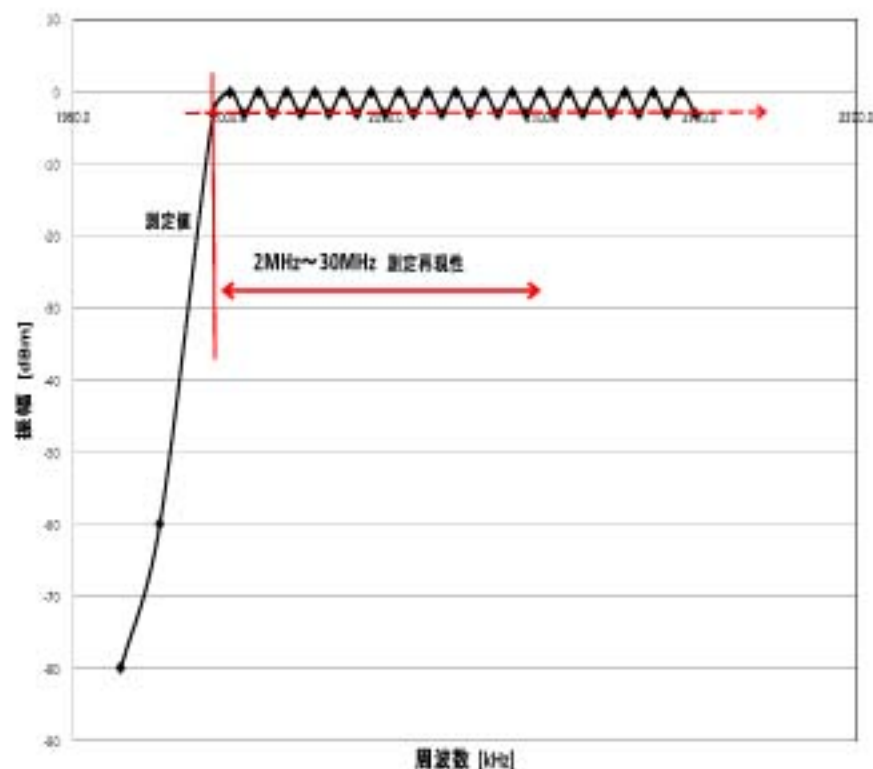


図1. 電界強度測定時の測定器の
測定振幅直線性(2MHz~)
点線より上が-3dB未満に測定値
が収まる周波数範囲を示す

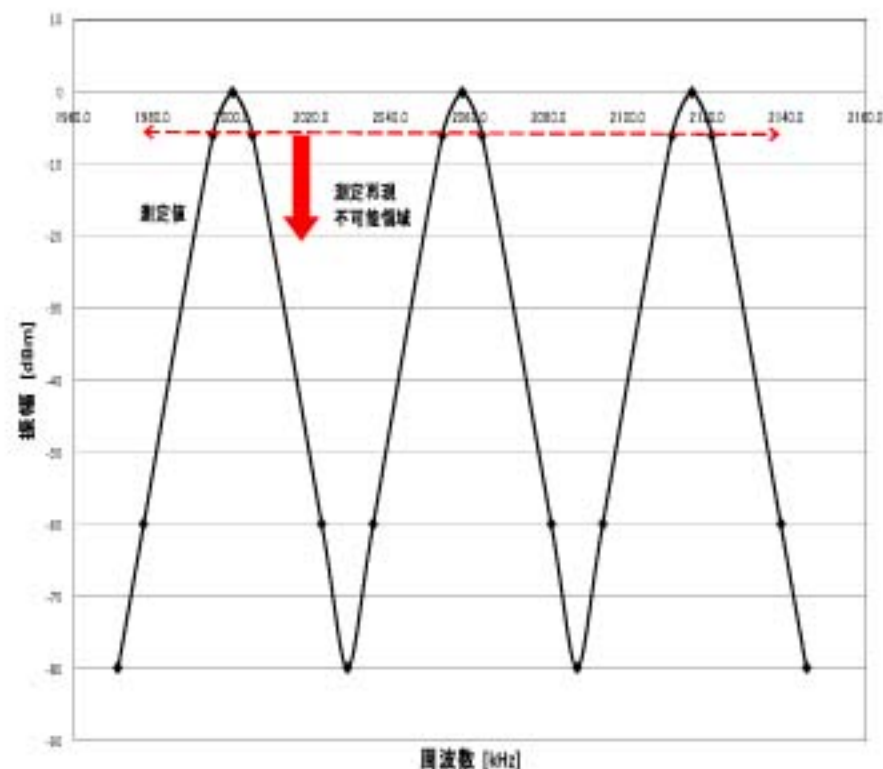


図2. 電界強度測定時のFSET22の
測定直線性(2MHz付近)
点線より上が-6dB未満に測定値が
収まる周波数範囲を示す

陳述書9/52頁及び32/52頁より

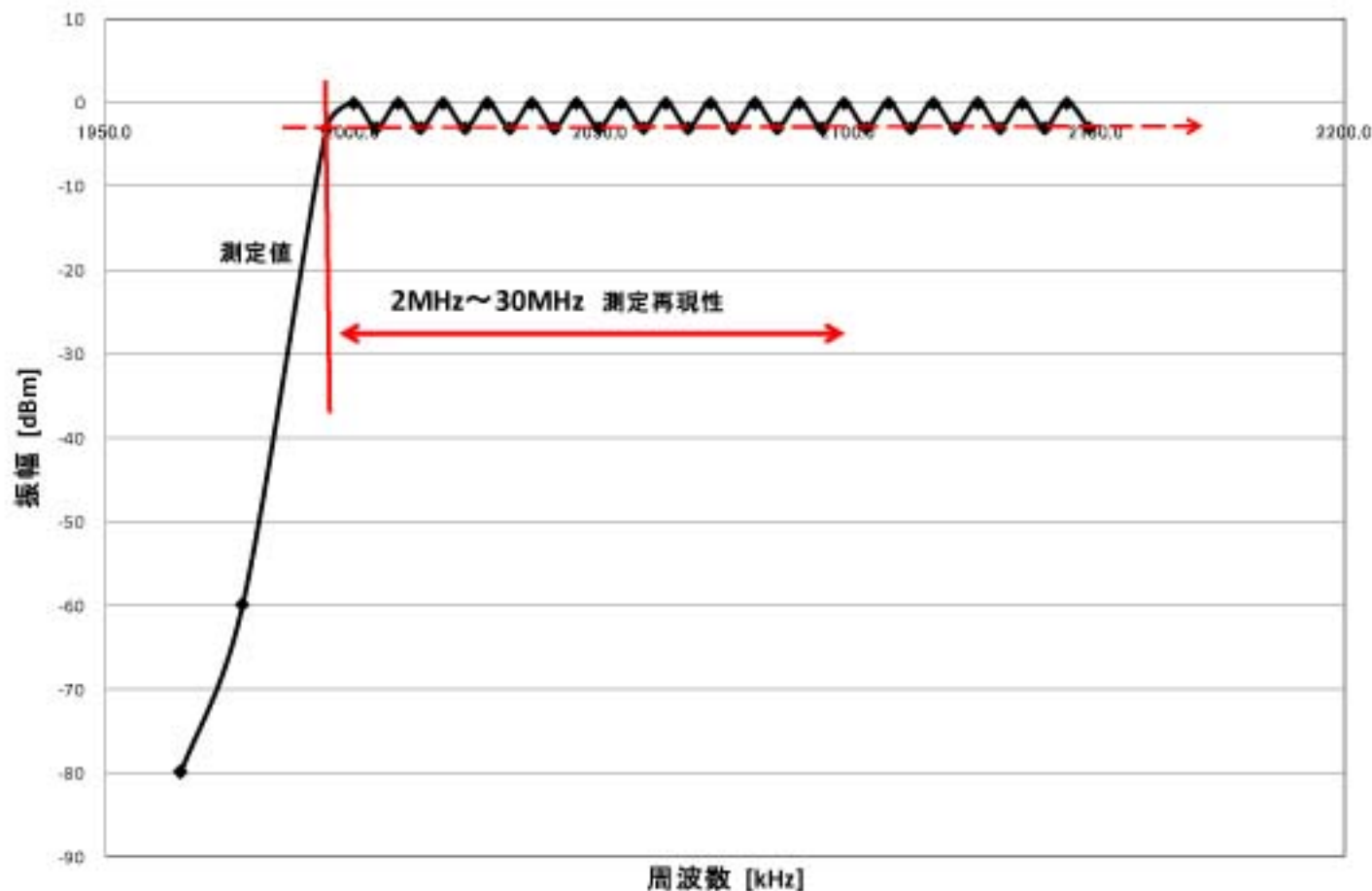


図1. 電界強度測定時の測定器の測定振幅直線性(2MHz～)
点線より上が－3dB未満に測定値が収まる周波数範囲を示す

陳述書9/52頁より

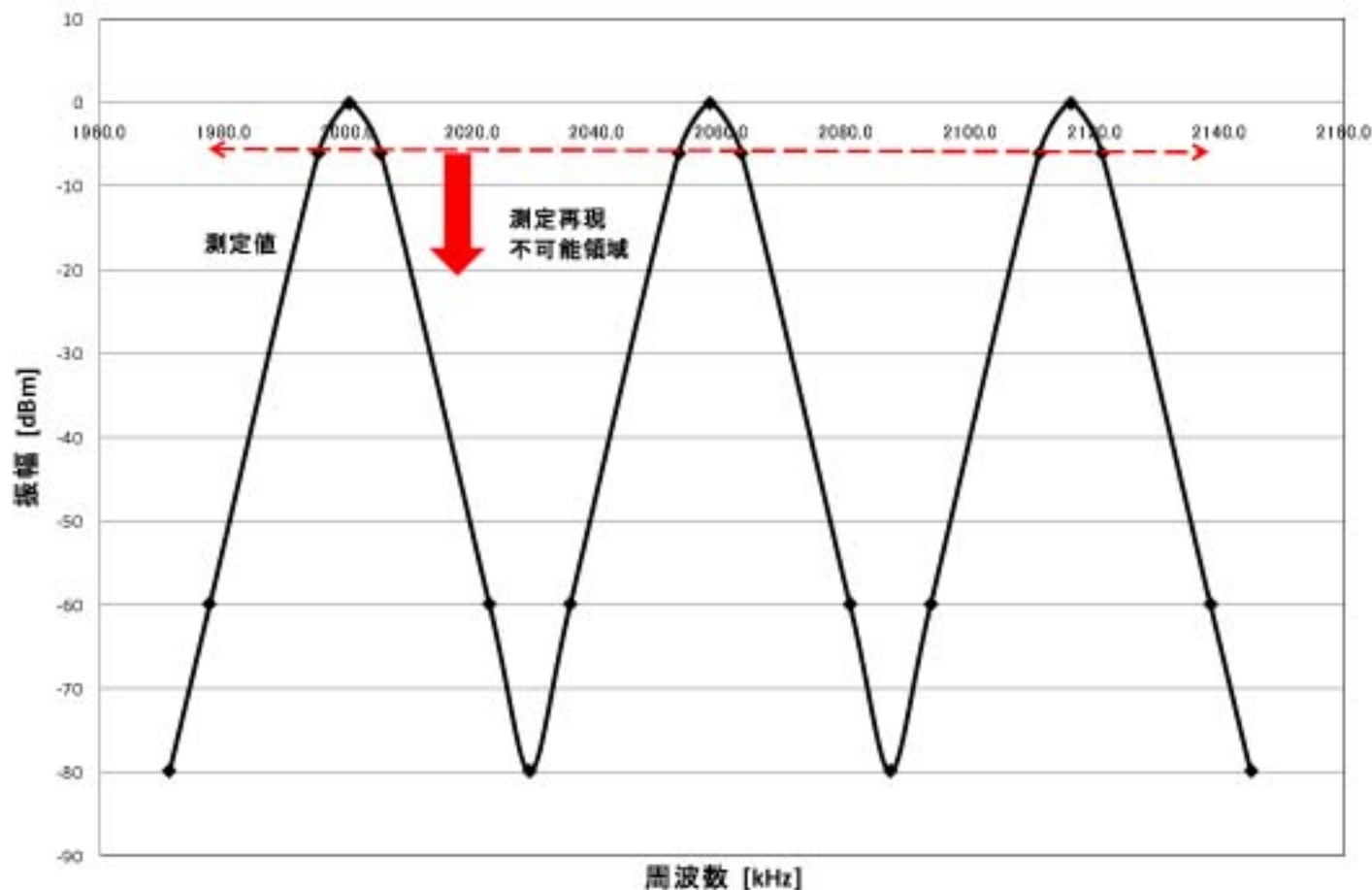


図21. 電界強度測定時のFSET22の測定直線性(2MHz付近)
点線より上が-6dB未満に測定値が収まる周波数範囲を示す

陳述書32/52頁より

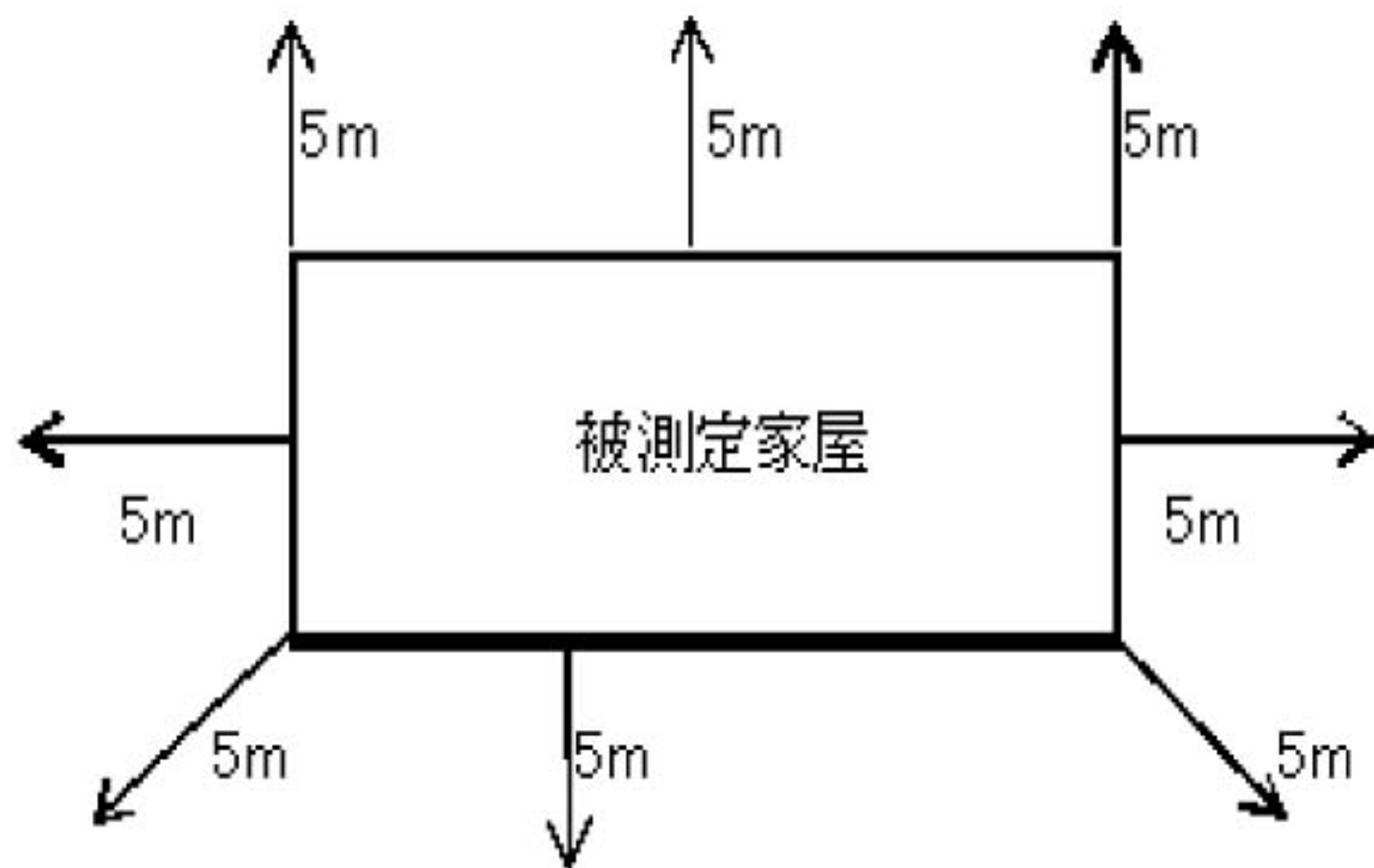


図3. 測定点(箇所)例

陳述書12/52頁より